

チャリティーボウリング 協力施設・企業・団体名簿

チャリティーボウリングにご協力を賜りました社会福祉施設、企業、関係団体の皆さま、多くの善意に深く感謝します。今後ともご協力をお願いします。

1. 株式会社 小禄運輸
2. 株式会社相慶電設工業
3. 就労支援ワークイット
4. 株式会社ワールド設計
5. 正清会 久田病院
6. 沖縄県労働金庫
7. 地域包括支援センターまーじ
8. 沖縄南部医療センター
9. 那覇市高良自治会
10. (株)沖縄ボイラエンジニアリング
11. 国際ソロプチミスト
12. 那覇市社協互助会
13. 那覇市上下水道局
14. (有)明伸商事
15. おきなわ共生会特別養護老人ホーム皇
16. (株)沖縄総合フーズ
17. 那覇市民部
18. 株式会社 沖縄特電
19. ハートランドおきなわ
20. 若杉福祉会
21. うるま福祉会
22. 真和志第6民児協
23. 小禄南まち協
24. 那覇保護区保護司会
25. 乙羽会グリーンハウス国場
26. ニライカナイ
27. 彩風の杜
28. からし種の会
29. そてつの会
30. 小禄第二民児協
31. 明治安田生命沖縄支社泊店

令和4年度ちゅいネットなは 食料支援協力団体名簿

本年度も、食料提供運動にご協力を賜り有難うございました。今回の反省点を改善し次年度も継続させていただきますので、ご協力のほどよろしく申し上げます。

- | | |
|--------------------------|-----------------------|
| 1. からし種の会 | 31. エンカレッジ小禄保育園 |
| 2. 葦の会 | 32. エンカレッジ鏡原保育園 |
| 3. (株)就労支援ワークイット | 33. わかば認定こども園 |
| 4. 就労支援センターふくぎ | 34. 安謝保育園 |
| 5. 正清会 | 35. ひまわり保育園 |
| 6. からし種の会 | 36. 保護者連合会 |
| 7. 沖縄中央福祉会彩風の杜 | 37. あやめ保育園 |
| 8. 正清会 | 38. たばる愛児保育園 |
| 9. そてつの会 | 39. こじか保育園 |
| 10. 正清会 | 40. ペリー保育園 |
| 11. からし種の会 | 41. 花のいろ保育園 |
| 12. こじか保育園 | 42. 首里当蔵保育園 |
| 13. おおな愛児保育園 | 43. こくら保育園 |
| 14. 地域包括センター大名
松本 由香穂 | 44. 向陽保育園 |
| 15. みぎわ保育園 | 45. きらら宇栄原保育園 |
| 16. ガジュマル保育園 | 46. いちごえ保育園 |
| 17. こじか保育園 | 47. すがやま保育園 |
| 18. 鏡原保育園 | 48. コスモ保育園 |
| 19. こくら保育園 | 49. 第二エミール保育園 |
| 20. さくら保育園 | 50. さくら保育園 |
| 21. オレンジ保育園 | 51. つぼがわ保育園 |
| 22. 第二オレンジ保育園 | 52. みぎわ保育園 |
| 23. ひまわり保育園 | 53. 鏡原保育園 |
| 24. おおな愛児保育園 | 54. グッピー保育園 |
| 25. みぎわ保育園 | 55. 風のうた保育園 |
| 26. こじか保育園 | 56. グループホームめぐみ
小禄南 |
| 27. マリヤ保育園 | |
| 28. みやぎ原保育園 | |
| 29. 玉の子保育園 | |
| 30. 千草保育園 | |



社会福祉法人立保育園保護者連合会による 保育分野食料支援活動 一人の百歩よりみんなの一步 (分かち合いの心育む)



今回、写真の掲載が叶わなかった保育園の皆さま、お詫び申し上げます。次年度は支援を頂いた全園を極力掲載させていただきます。

なは地域貢献便り 3月

「なは地域貢献便り」は、那覇市内の社会福祉法人等施設が、地域の応援団として取り組む情報誌です。

なは地域貢献便りは、那覇市内の社会福祉法人等施設が、地域の応援団として取り組む情報誌です。本事業は、厚生労働省から、小規模法人ネットワーク化事業(ちゅいしいじい事業)として、地域の社会福祉施設を運営する法人(特に社会福祉法人)の地域貢献活動を推進することを目的に、沖縄県社協、那覇市、西原町、今帰仁村の4社協が令和2年度から4年度までの3年間のモデル事業として取り組んできました。これまでの3年間の総括をご報告します。去る2023年3月16日に、第3回、第4回施設連絡会で、総括と今後の取組について意見交換が活発に行われました。



令和4年度 第3回
那覇市社会福祉施設連絡会意見交換



令和4年度 第4回
那覇市社会福祉施設連絡会意見交換

3年間での意見交換や活動は、那覇市における 福祉課題の解決に少しずつ歩み始めた。

- | | | |
|---|---|---|
| <p>1 全社会福祉施設
(総合相談)
社会的孤立防止に私たちの専門性や特性を活かし複数法人が連携していく</p> | <p>2 全社会福祉施設
(貧困世帯への支援)
生活困窮者は今後も増加、食料支援、チャリティー活動を継続しよう</p> | <p>3 全社会福祉施設
(福祉教育)
地域の福祉の担い手として、自治会加入や民生委員の地域活動を応援しましょう。(各小中高での福祉教育を推進)</p> |
| <p>4 全社会福祉施設
(居場所づくり)
地域と施設の利用者の繋がりをもちたい。地域の拠り所をめざそう。</p> | <p>5 保育児童障がい分野施設
(社会的養護の必要な子ども、孤立化しない保育)
虐待を受けて心に傷をもつ子ども、何らかの障害のある子ども、DV被害の母子などへの支援を行う施策へと役割が変化している。更に、本来大人が担うとされている家事や家族の世話などを日常的に行っている子ども(ヤングケアラー)が著しく増加している。このような状況にスピード感を以て取り組んでいく。(就労体験、社会参加活動の支援。)</p> | |
| <p>6 障害分野、高齢分野等の社会福祉施設
(社会参加、移動支援)
ひきこもりや、ニート、高齢者等の交通不便地域の実態を把握し、専門機関と連携する必要がある。</p> | <p>7 高齢分野・地域福祉分野
認知症や単身世帯の高齢者が増加傾向にある。キッズ見守り隊など施設の特性と専門性を活かそう。</p> | |



例えばこんな困りごとの世帯を支援しました。

- ① 小学校に通う6年生男子がご家庭でご飯を食べていない様子があり、支援員の顔を見る度にお腹が空いたと声を掛けてくる。(食料支援活動につなぎ、様子を見ています。)
- ② 所持金が30円しかない。電気ガスが止まったまま、食べるものがない。⇒食料支援 ⇒CSW ⇒法外援護 ⇒保護課
- ③ 3名世帯、子は小3、6年生、生活が厳しくて食べる物が少ない。(食料提供と困ったときに相談しやすい関係性を持つ)
- ④ 外国人夫婦、来日8年、産後3か月、夫は学生ピザの関係で働く時間が限られていて、収入面が不安定な方に食料支援や滞納がないか確認し、寄り添い支援を行う。



令和2年度～4年度(2020年度～2022年度)事業報告総括

1. 那覇市社会福祉施設連絡会の開催

令和2年度(2020年度)	実施回数8回	小禄地区除く首里・本庁・真和志地区における連絡会	18 法人参画
令和3年度(2021年度)	実施回数6回	小禄地区設置(7法人)	25 法人参画
令和4年度(2022年度)	実施回数8回	(4行政区地域懇談会4回含む)	28 法人参画

2. 本事業の特徴的な取り組み

①行政区毎のCSWの配置の周知

CSWを地域福祉計画に基づいて社会的孤立防止運動の一環として配置していることから、本事業も行政区毎のCSWを配置し、社会福祉施設が福祉課題への対応ができるよう連携することの周知が図られた。

②行政区毎のプラットフォームの設置

社協の事務局を除く、首里5、本庁6、真和志6の計17法人が連絡会の基盤固めに参画しました。令和3年度に小禄地区7法人、令和4年度に真和志地区3法人に入会していただき、社協を含め28法人が現在、参画している。

③なは地域貢献便りの発行

コロナ禍の中、400有余の法人に周知活動の一環として、ホームページと併せて、なは地域貢献便りを、連絡会の開催を契機に、令和2年度(7回)9月号から3月号まで毎月発行し、参画法人の地域貢献活動の紹介と、連絡会の状況を広報した。令和3年度、地域貢献便りを年6回(5, 7, 9, 11, 2, 3)令和4年度は手引書作成のため、4回6千部発行し、社会福祉施設並びに社協便りの会員にも配布した。連絡会の報告や、施設の活動紹介をこれまでに17団体紹介し、地域貢献活動のイメージを拡げて行くことが出来た。

3. 複数法人の連携による地域貢献の為の協働事業

令和2年度(2020年度)

連絡会における意見交換を通して、法人でやっていることとやってみようことを整理した。各法人の分野別の強みを地域福祉課題の解決に活かした活動イメージを7分野に見立てアンケート調査を実施した。複数法人の連携による地域貢献の為の協働事業の試行的取り組み案として連絡会において協議し承認を得た。

令和3年度(2021年度)

①試行的モデル事業

昨年連絡会では、7つの活動分野の提案を小禄の参画法人を加え改めて24法人に活動調査結果を共有し、市内の400有余の法人が参画できるような仕組みづくりとして、ちゅいネットなはの愛称案で、内容を実施しながら検討を図ることになった。しかし、コロナ禍の中においては7つの活動分野のうち、食料支援、福祉教育、移動支援の3つの活動に絞られた。

②連絡会構成施設食料支援推進事業

新型コロナウイルスの影響等で困窮した世帯を支援するために、困窮世帯等への食糧支援(フードバンク)を実施した。(令和3年3月～令和4年3月まで4064点18団体集まった)

③移動支援サービスモデル事業

公共交通不便地域の自治会(石嶺ハイツ自治会)をモデルに、買い物送迎支援を実施しました。地域の社会福祉法人等が送迎の空いている時間帯を活用し、車両で提供しました。社協がまずは取り組み、今後は地域主体での運営を目指し、意見交換も行っています。この事業は、生活支援体制整備事業の一層協議体においても、協議があり連絡会が参画している3法人も活発な意見を行いました。



石嶺ハイツ自治会 シャレード号の出発式

シャレード号に乗ってスーパーの買い物

④災害時における社会福祉施設の役割

直接事業を実施しなかったが、第5.6回連絡会において、災害時の福祉避難支援計画について、地域と繋がってれば、助かっていたかもしれない命を失った障がい者の母子の事例をもとに、災害時要援護者の地域への参加支援について必要性を確認し合った。

令和4年度(2022年度)

法人の専門性と施設機能を活かした地域貢献活動の複数法人連携での取り組み
○生活困窮者食料支援を那覇市社会福祉法人立保育園保護者連合会の再結成の契機に!

①食料提供運動による複数連携

○コロナ禍において、構成員として参加していただけることに感謝しつつ、28法人が一丸となって取り組みをよびかけたのは、食料提供運動です。
○令和4年度も、引き続き5千点を目標に各法人に食料提供を呼びかけたところ、6048点42団体から食料が集まった。
○その原動力となった、那覇市社会福祉法人立保育園保護者連合会(市内80園)は、コロナ禍により保護者会の活動が休止中だったが、食料支援活動を会の活動として呼びかけたところ、保育分野だけで34園、5045点の食料を集め、保護者連合会の再結成の契機となった。
○集めた物品は、コロナ生活福祉資金特例貸付で、失業又は休業の方などで、生活に困っている方を含めて、ふれあい福祉相談室を通して、189世帯の生活困窮世帯、子ども食堂55箇所、那覇市母子寡婦福祉会、生活困窮世帯を支えるボランティア任意団体等を通して支給しています。
○真和志地区では、繁多川公民館が、自ら備蓄庫を備えたシェアマーケットを実施しています。また石嶺児童園の卒園生、国場児童館にも支給いたします。



うるま福祉会フードドライブ贈呈



認可保育園保護者会食料提供フードドライブ活動報告

②指定管理指定施設法人(日本赤十字社)と社協の複数連携

本年度は、日本赤十字社が指定管理を受けている安謝児童館の、入浴場が老朽化で使用不可となっており、空いているスペースの有効活用から、食料の備蓄庫としての申し出がありました。各行政区において食料の受け取りが身近な地域で拡がっていくことを願っています。
また、今後はミルクを買えない貧しい世帯への支援を行っている共育ステーションつむぎの備蓄庫としても共有予定です。

③移動支援サービスモデル事業

昨年度の石嶺ハイツ自治会に続き、公共交通不便地域で高齢者の移動支援ニーズが高い大名第二団地自治会(首里大名町)で、株式会社OTM(沖縄トヨタグループ)のご協力をいただき、カーシェアサービス『TOYOTA SHARE』によるレンタカーを『地域の足』として活用し、車両の保管場所を大名児童館、サービスコーディネーターは自治会、運転ボランティアは社会福祉法人若杉福祉会と本会等が担い、買物を目的とした移動支援を半年間モデル事業としてスタートしました。地域の社会福祉法人や企業、地域ボランティア等の皆様と引き続き、地域全体で高齢者の移動支援を支えあうネットワークを目指します。



大名児童館にてキックオフセレモニー

④チャリティボウリング大会の実施で生活困窮者応援事業における複数連携

令和4年度は最終年度として、連絡会の構成施設を巡りヒアリングを実施しました。この事業がコロナ禍の中で始まり、収束を待たずに終了する中で、このような事業は交流が大事だというヒントを得ました。施設が社会的課題に立ち向かうには、楽しみながら交流を図る企画が必要ではないかと考え、「ちゅいネットなはチャリティボウリング」をスカイレーン(那覇市具志在)において企画しました。令和4年度12月～2月末までの期間に、各施設の親睦交流を兼ねて行われました。純益金は、那覇市社協を通して生活困窮者応援活動の支援金として、チャリティ実行委員長(そてつの会理事長 新元時雄氏)から50万円が那覇市社協(会長 新本博司)に贈呈されました。



チャリティボウリング贈呈式



チャリティーボウリングの様子

寄付金の使途
生活困窮世帯を支援する団体を通して配分します

⑤社会福祉施設における「災害時要援護者の受け入れなどに関する調書」の集計報告と活用

昨今、社会福祉施設における福祉避難所の設置が、必要不可欠に求められており、社会福祉施設の機能や、要援護者の避難支援計画に伴う備えが重要になっており、標記の調査を行った。67施設からの回答が寄せられた。活用方法については、福祉政策課と共に、社会福祉施設に対する防災研修と、福祉避難所の訓練を検討していきたいと結んだ。(詳細はwebで)

4. 福祉・介護人材の確保・定着のための取組内容

①福祉施設による福祉体験講話による複数連携

コロナ禍の中において、小中高から福祉のお仕事講話や、福祉体験講座の依頼をいただきました。これまでは、ボランティア担当者が、需給調整に四苦八苦していましたが、ちゅいネットなはの構成法人、もしくは対応可能な法人へ依頼をし、県の福祉人材センターと連携し下記の通り福祉教育の分野の働きかけを行うことが出来ました。また、看護大学への無料塾は、多くの病院の希望者を募り、将来の医療従事者となる看護学校合格者を支援しました。(社協も職員1名以上と、地域の民生委員・児童委員も参加しています。)

年度	依頼校	派遣法人
2020年(令和2年)	安謝小 那覇中学校 繁多川公民館防災講話 看護学校合格支援無料塾開校	安謝複合施設1名 一般社団法人ハーネス1名 日本赤十字社沖縄県支部1名 正清会2名(合格者10名)
2021年(令和3年)	石嶺中学校1年 泊高等学校3年 看護学校合格支援無料塾	ゆうなの会1名 ゆうなの会1名 正清会2名(合格者11名)
2022年(令和4年)	曙小学校4年生 城東小学校4年生 城西小学校3年生 石嶺中学校1年生 松城中学校 真和志高校 みらい支援学校 通信制メイン高等学校 真和志第二民児協防災講話 看護学校合格支援無料塾	障がい者就労支援センタークローバ1名 ニライカナイ4名 障がい者繁多川支援ロービジョン1名 ゆうなの会1名 沖縄にじの会1名、ニライカナイ4名 雅福祉会1名、社協1名 沖縄にじの会1名 日本赤十字社沖縄県支部1名 日本赤十字社沖縄県支部1名 正清会2名(合格者14名)



松城中学校での福祉体験 彩風の杜那覇の4名が講師となり、真和志第2民児協がサポートしました。



久田病院の看護大学合格への無料塾

手引書入門編が完成しました。(詳細はwebで)

ちゅいネットなは、新たな社会福祉施設の入会をお持ちしています。

令和5年度の事業計画 「ちゅいネットなは」体系図案

